

越谷市立小中一貫校整備PFI事業者選定における資金審査等業務委託

委託先：小川 千恵子、中澤 仁之

審査項目	1 事業計画全般に関する事項 (2) 資金・収支計画	配点	25	ケヤキ		
				評価者①	評価者②	平均
				B	B	15.00

個別講評（ケヤキ）		
評価者①	評価者②	
<p>ケヤキグループの資金計画や収支計画の審査結果について、各審査項目に関して、総合的に優れていると考えるため、Bと評価している。</p> <p>資金計画の安定化方策の提案については、いずれも、資金計画の安定化に寄与するものと評価している。</p> <p>特に、出資金が他グループに比して出資できること、資金計画を月次で精緻に実施すること、「融資確約書」によって融資が確約されていることについては評価できる。なお、出資金の調達原資が株主劣後ローンによっている企業が金額的に大部分を占めるが、出資金は維持拘束性があり、特に問題ないものと考えている。</p> <p>キャッシュフロー不足への対応策の提案については、いずれも、キャッシュフロー不足への対応策として有効なものと評価している。</p> <p>特に、請負・委託費用が入札時点の固定金額（固定価格契約）にて合意済とあり、事業者の側にはリスクとなる可能性があるが、キャッシュフロー不足への対応策としては有効と評価している。</p> <p>事業の安定性確保のための独自提案については、いずれも、事業の安定性確保に寄与するものと評価している。</p> <p>特に「事業評価書」において、「事業期間に亘り本事業を実施するに必要な事項についての分析・検討及び具体的な対策が網羅されており、越谷市が公表した入札説明書等に基づき、本事業を安定的に遂行するためのリスク補完措置が十分に施された事業計画である」と評価されている点については評価できる。</p> <p>また、資金計画や収支計画に直接関連する事項として、ケヤキグループの資金収支計画表では消費税及び地方消費税を除いた市の支払う対価と、比較のため消費税及び地方消費税を除いた予定価格15,792,918千円と比べて削減できる点や参考指標としてのPIRR、配当IRR、DSCRの各指標が当該PFI事業を考慮した場合に妥当であると評価できること、提案金利が、最近の国債金利や金利上昇リスクを考慮しても長期資金としては低利で問題ない水準であると評価できることについても、審査結果に加味されている。</p>	<p>ケヤキの資金・収支計画については大きな問題はない判断した。</p> <p>「資金計画の安定化方策の提案」については、シラコバト、ケヤキとも差は感じられなかった。「キャッシュフロー不足への対応策の提案」については、金融機関からの融資枠が大きいケヤキが優れていると思われた。</p> <p>「事業の安定性確保のための独自提案」については、会計監査を提案し、また具体的な安定化施策を提案しているシラコバトが優れていると思われた。</p> <p>資金計画については利息負担等を考慮すると総借入額は少ない方が財務的には健全であり、シラコバトが優れていると判断した。</p> <p>一方で様々な要因により原材料費等が高騰し資金需要が拡大する可能性があるため、金融機関の借入枠が大きい方が有利である考えた。金融機関の借入枠が大きいケヤキが優れていると判断した。なお、ケヤキの資金計画における借入額が多いことが気にかかったが、不測の事態に備えて金融機関からの借入枠を確保するためと推測し、特に大きな問題とはならないと判断した。</p> <p>収支計画については、営業収入は市からケヤキへの支払であるので、当該支払額が少ない方が市にとって有利であり、また営業費用はケヤキが市へ施設整備や維持管理等に要した額を請求する根拠となるものであるから、少ない方が市にとって有利であると判断した。営業収入及び営業費用を収支計画については、ケヤキが優れていると判断した。</p> <p>なお、初期投資金額の総額が少ない方が市にとって有利であり、シラコバトが優れていると判断した。維持管理費用等については少ない方が市にとって有利であり、ケヤキが優れていると判断した。また、割賦金利が低い方が市にとって有利であるため、ケヤキが優れていると判断した。</p> <p>上記の各項目を総合的に評価した結果、シラコバトよりケヤキが優れているものと判断した。</p>	

※非公開情報等を編集しています。

審査項目	1 事業計画全般に関する事項 (2) 資金・収支計画	配点	25	シラコバト		
				評価者①	評価者②	平均
				C	C	7.50

個別講評（シラコバト）		
評価者①	評価者②	
<p>シラコバトグループの資金計画や収支計画の審査結果について、各審査項目に関して、総合的にやや優れないと考えるため、Cと評価している。</p> <p>資金計画の安定化方策の提案については、いずれも、資金計画の安定化に寄与するものと評価している。</p> <p>特に、「融資確約書」が取得済であり、融資が確約されていることについては評価できる。</p> <p>なお、「代表企業が劣後ローンを拠出し、広義エクイティとして自己資本に厚みを持たせた強固な財務基盤を構築」とあるが、劣後ローンはローンであり、安定化にはローンよりも出資金の方が望ましいと考える。</p> <p>キャッシュフロー不足への対応策の提案については、いずれも、キャッシュフロー不足への対応策として有効なものと評価している。</p> <p>事業の安定性確保のための独自提案については、いずれも、事業の安定性確保に寄与するものと評価している。</p> <p>特に、「専門機能を結集した財務モニタリング体制」の構築は、複数の専門性のある第三者によってモニタリングが行われることが期待でき評価でき、また、「事業の安定性確保のための具体的な施策」についても、具体性があり、事業の安定性確保に寄与すると評価している。</p> <p>また、資金計画や収支計画に直接関連する事項としてシラコバトグループの資金収支計画表では消費税及び地方消費税を除いた市の支払う対価と、比較のため消費税及び地方消費税を除いた予定価格15,792,918千円と比べて削減できるが、他グループに比べて市の支払う対価が多額となる点や、提案金利が最近の国債金利や金利上昇リスクを考慮しても長期資金としては低利で問題ない水準であると評価できるが、他グループに比べて金利が高いことも、審査結果に影響を与えていた。</p>	<p>シラコバトの資金・収支計画については大きな問題はないと判断した。</p> <p>「資金計画の安定化方策の提案」については、シラコバト、ケヤキとも差は感じられなかった。「キャッシュフロー不足への対応策の提案」については、金融機関からの融資枠が大きいケヤキが優れていると思われた。</p> <p>「事業の安定性確保のための独自提案」については、会計監査を提案し、また具体的な安定化施策を提案しているシラコバトが優れていると思われた。</p> <p>資金計画については利息負担等を考慮すると総借入額は少ない方が財務的には健全であり、シラコバトが優れていると判断した。</p> <p>一方で様々な要因により原材料費等が高騰し資金需要が拡大する可能性があるため、金融機関の借入枠は大きい方が有利である考えた。金融機関の借入枠が大きいケヤキが優れていると判断した。</p> <p>収支計画については、営業収入は市からシラコバトへの支払であるので、当該支払額が少ない方が市にとって有利であり、また営業費用はシラコバトが市へ施設整備や維持管理等に要した額を請求する根拠となるものであるから、少ない方が市にとって有利であると判断した。営業収入及び営業費用を収支計画については、ケヤキが優れていると判断した。</p> <p>なお、初期投資金額の総額が少ない方が市にとっては有利であり、シラコバトが優れていると判断した。維持管理費用等については少ない方が市にとっては有利であり、ケヤキが優れていると判断した。また、割賦金利が低い方が市にとって有利であるため、ケヤキが優れていると判断した。</p> <p>上記の各項目を総合的に評価した結果、シラコバトよりケヤキが優れているものと判断した。</p>	

※非公開情報等を編集しています。